

今月の逸品

NO.34 2018.01

京都市伏見区深草藤森町1
 ☎ : 075-644-8840/8175
 ✉ : manabi@kyokyo-u.ac.jp
 🕒 : 13:30 ~ 17:00
 開館日 : 月・水・金



MUSEUM OF EDUCATION



狩野直喜博士像

制作者：松田尚之
 1938 (昭和 13) 年

W450mm×D340mm×H670mm

中国文学者、^{かの}狩野直喜 (1868-1947。号は君山) の胸像。現在、京都大学人文科学研究所東アジア人文情報学研究センターに設置されているブロンズ像の原型で、京都学芸大学で美術科彫塑専攻の初代教授を務めた松田尚之 (1898-1995) の制作によるものである。東京帝国大学文科大学漢学科を卒業した狩野は、明治 39 (1906) 年に京都帝国大学文科大学が設置されると、開設と同時にその教授に就任し、そこで中国哲学や中国文学を講じた。その後、昭和 4 (1929) 年に京都大学人文科学研究所の前身の 1 つである東方文化研究所が設置されると、その初代所長となり、昭和 19 (1944) 年には文化勲章を受章した。狩野は、清朝考証学や元曲研究の日本における先駆者として名高く、内藤湖南らとともに新しい学風を開いたと評価され、『支那学文叢』『読書叢餘』『中国哲学史』他の多くの著書が存在する。老成した狩野の姿を写しとる松田のこの作品には、人文学者、狩野直喜の力強さと優しさの両面が表現されている。その眼差しからは、研究者として学問を見据える尊^{ひげ}さや純粋さが、頬からはおおらかさが、そして、髭を蓄えた口元からは、その意志の強さが表れているようであり、狩野の人柄がにじみ出る、秀でた肖像彫刻であるといえよう。松田の彫刻作品は、没後の平成 8 (1996) 年に京都教育大学へ寄贈されたが、この狩野直喜博士像は、20 点ある寄贈作品のうちの 1 点である。



〈狩野直喜著書〉

- 春秋研究
- 支那小説戯曲史
- 御進講録
- ※ 清朝の制度と文学
- ※ 漢文研究法
- ※ 論語孟子研究
- 支那文学史
- 魏晋学術考
- ※ 両漢学術考
- ※ 中国哲学史
- ※ 読書叢餘
- ※ 支那学文叢

※ 京都教育大学 附属図書館蔵
 ■ 本学国文学科教授 谷口匡蔵